

第4回モニタリング委員会の議事概要及びその対応

第4回モニタリング委員会の議事概要及びその対応について以下に示す。

表1 第4回モニタリング委員会の議事概要及びその対応<1/2>

議事	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
平成23年度モニタリング調査結果について	1	ヨシ焼きをやらないほうがセイタカアワダチソウが抑制される傾向があるのか。	はっきりしたことはわかってないが、セイタカアワダチソウが抑制されたのは遊水地に水が入った影響とと思っている。	
	2	ベニマシコという鳥はアキニレの実とセイタカアワダチソウの実が好きでセイタカアワダチソウの実のつきがよくないことで、アキニレの実を早いうちに食い尽くしてしまったと考えられる。		今後の調査の参考とする。
	3	浅井戸と深井戸の定義を書いておいて欲しい。	ストレーナの位置を表示しているが、わかりやすく表示する。	
	4	植物の種による、冠水の時期と成長とのかかわりを検討されたらどうか。	ヤナギについては、出水により種が漂い発芽するものと、風により種が飛んで発芽する二通りあり、成長の時期が異なる。	
	5	掘削によって生物多様性が増加したかの視点で考察したほうがよいのでは。		意見を踏まえ検討していく。
	6	掘削地においてエリザハンミョウという甲虫の仲間が増えており良いことだと思う。		
平成24年度モニタリング計画について	7	掘削に入る前にその植生を確認した上で、貴重なものがあれば、どう保全するか考えた上で生物多様性を守りながら掘削していくべきである。	掘削するところに関しては貴重種の調査をし、対処方法を検討する。	
関連調査の調査結果について	8	湿地環境にするには、施工前の地下水位の平均から少し下を基準面にして掘削するとよい。		掘削計画に反映させる。
	9	セイタカアワダチソウとヤナギについては、抜き取りと冠水により抑制できた。		問題種の抑制への参考とする。
	10	ヤナギの除去については土の中で切ると抑制効果がある。		問題種の抑制への参考とする。
	11	渡良瀬遊水地では湿ったヨシ原よりも、乾いたオギ原で絶滅危惧種の種類が多い。渡良瀬遊水地の多様性が高い要因としては、湿った環境、多少湿った環境、やや乾いた環境などが混ざり合っているためであると思われる。		今後の調査の参考とする。
	12	小動物が実験地でどのように出ているのか、特に密度、量が把握できればよいと思う。		意見を踏まえ検討していく。
	13	東大のデータによる掘削回避地には貴重な植物があるので、考えてほしい。		掘削計画において検討する。

表1 第4回モニタリング委員会の議事概要及びその対応<2/2>

議事	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
関連調査の調査結果について	14	掘削地で野鳥が利用を始めており、調査しておく必要がある。		NPO等のデータを含め把握していく。
	15	チュウヒの繁殖の可能性があり調査をする必要がある。		NPO等のデータを含め把握していく。
平成25年度以降の掘削計画について	16	石川沿いにはミサゴが食餌するヤナギがあるため、残す工夫をして欲しい。		当該区域の掘削時に配慮する。
	17	表土撒き出しは春季に植物種が多く、ヤナギの進入を防止する効果あるという記載があるが、湿性草地再生実験地の表土撒出区ではツルマメに覆われた。表土撒き出しは慎重にお願いしたい。		H25の掘削計画において表土撒き出し区域を縮小した。今後の推移を見守る。
	18	掘削法勾配10分の1よりも5分の1のほうがセイタカアワダチソウの進入が少ないという記載があるが、5分の1の方は抜き取ったためである。		資料を修正しました。
	19	今後は、現況を保全する地区を本当の意味で保全するのか、再生された湿地環境をどのように維持していくかについて、手法論を含めて議論していく必要がある。		今後議論していく。